

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3970200113
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム びわの里
訪問調査日	平成 20 年 1 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 20 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3970200113		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム びわの里		
所在地 (電話番号)	室戸市室戸岬町字大つぼ4078番地 (電話) 0887-24-2078		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	H20年1月29日	評価確定日	H20年5月20日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 7(内兼務2)人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.0 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	実費5,000~6,000円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800	円	

(4) 利用者の概要(1 月29 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低 73 歳	最高	98 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三宅医院、岩崎歯科	2
---------	-----------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然に恵まれ、地域に愛され、地域に支えられたホームである。公民館長が中心になり、地域の行事に参加しており、文化祭への参加は利用者の楽しみや生きがい作りとなっている。利用者は職員より人生の先輩であることを常に職員全員が意識して、生活をしている姿が窺える。天草ほし、ところてん作り、食用あざみのてんぷら作り、押し寿司作りなど地域特有の料理の仕方などを、教えてもらう事があり、利用者の意欲にも繋がっている。生き生きと生活する利用者に職員が癒される場面もある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者一人ひとりの過去の経験をいかしたケアについて、センター方式を取り入れ、入居時からより多くの情報を入手する事に努めている。この事により家族とのコミュニケーションも徐々に増えつつある。職員を担当制にし、入居者とのかかわりが増えてきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、副管理者のみで自己評価を作成し、職員には作成されたものを見てもらうのみとなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の行事についての話し合いが多い。推進委員からもちつき大会や市の文化祭への参加など、また市の介護保険課とも意見交換がされている。評価で明らかになった改善点についても報告をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来訪時は、職員が話しかけ意見を言ってもらう事を大切にしている。家族会が年3回あり、多くの家族が参加している。家族会の際は極力席をはずすなどして、家族同士で意見を出し易い雰囲気作りを努めている。言葉遣いについての家族からの苦情が過去にあり、文書で残している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公民館長が、地域との橋渡しをしてくれている。年1回行われる文化祭に参加するほか、敬老会、七夕会にも参加している。ボランティアの花植えグループにも入り、地域の方との連携は取れている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	■事業所独自の理念がある。 今までの理念は「やさしい笑顔と思いやり」であったがあまりにも抽象的であると考え、平成19年11月に新たにびわの里独自の理念を作っている。 <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。	<input type="radio"/>	地域との交流もあり、すでに地域密着型サービスとしての役割を目指す方向性は出来ているので、それを踏まえた文章が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	■理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 理念に沿って、どのように対応したらよいか、職員会の時に話し合っている。又復唱をしている。 ■日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	■地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 地区の常会に参加している。 ■リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 地域活動への参加は、公民館長の協力のもと、公民館の広報等を情報源に、文化祭などに参加している。花植えのボランティア「つわぶきの会」に入会し、地区の方と接点を持つ努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 管理者と、副管理者で作成し、職員には評価内容を職員会の時に見てもらっている。 ■評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 改善計画は職員に口頭で伝え、改善点を中心に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	管理者と職員全員が一緒に評価改善に取り組むことで、サービスの質の確保や課題への気づき、共有化などが図れるため、一連の過程を職員全員で取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>■ 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。</p> <p>■ 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 活発な意見交換が出来ている。</p>		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<p>■ 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。</p> <p>市介護保険課の認定委員や福祉課の職員の訪問があり、普段から、行き来がある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<p>■ 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 家族の来訪時には、必ず声をかけ、近況を報告し、要望等を伺っている。</p> <p>■ 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 毎月「びわの里便り」を送り、日常の様子を知らせている。</p> <p>■ 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。</p> <p>■ 金銭について用途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 金銭出納帳と小遣い帳をコピーして家族に送っている。</p>		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>■ 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会は年3回あり、多くの家族が参加されている。家族同士で話ができるように、席をはずす配慮をしている。</p> <p>■ 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 言葉遣いの点で苦情を受けたことがあり、文書で残している。職員会で、その点について、話し合いの機会を多く持っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<p>■利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。職員は長く勤める事が出来る体制である。</p> <p>■職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取、スムーズに移行できるように配慮している。</p> <p>引継ぎ期間を半月程度とり、利用者に職員交代を知らせ、お別れ会など職員と利用者が合同で行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>■日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。</p> <p>勤務時間内に研修に参加できる体制である。</p> <p>■全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。</p> <p>レポートを書き、職員会で発表もしている。資料はまとめて閲覧できる。</p>		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>■県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。</p> <p>高知県宅老所・グループホーム連絡会に加入している。</p> <p>□管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。</p> <p>同法人との交流にとどまっており、他の同業者との交流の機会は少ない。</p>	○	法人内での交流や連絡会も重要であるが、地域や他のホームと交流の機会を持つことで、サービスの向上につながることも多い。交流の在り方について検討されることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<p>■入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。</p> <p>本人、家族、支援センター、ケアマネ、施設の相談員から情報を得ている。</p> <p>■本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。</p> <p>■入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。</p> <p>管理者と副管理者が面接をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<p>■日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。干し柿作りや押し寿司などの料理の仕方を日々の生活の中で教えてもらうなど、職員は、人生の先輩として利用者から学ぶ事が多い。</p> <p>■支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。</p> <p>■利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 方言、神祭の仕方、天草ほし、ところてん作り、梅干作り、干し柿づくり、ほし大根作りなど日々の生活の中で、大切な事を教えてもらっている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<p>■一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 センター方式を取り入れ、職員に担当制を設け、把握に努めている。</p> <p>■意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 管理者が中心となり親戚の方などからも情報収集に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<p>□本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 家族の意見等の把握が十分とはいえない。</p> <p>■アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 モニタリングを3カ月に一度行っている。</p>	○	家族の意見を引き出す工夫とともに、日々の気づきを常にストックして、その情報を共有する事で、必要な支援を盛り込んだ個別・具体的な介護計画の作成を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<p>■介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 短期は3カ月、長期は6カ月ごとに見直している。職員会でカンファレンスを行い、問題点を抽出している。</p> <p>■本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 変化があった場合、その都度の見直している。</p> <p>□ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。</p>	○	本人の状態の変化に応じ、期間にこだわらない期間設定をすることが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	■医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 医師の往診を受けながら、ホームでの生活を継続できる体制にある。 ■重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 終末期の指針を作成し、家族等の同意も得ている。 ■特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 毎週火曜日は定期的買い物に出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	■いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 ■受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応しています。 ■受診結果に関する情報の共有ができています。 家族が同行した場合は、薬剤情報シートや口答で受診の結果を提供してもらい、ホームが受診を支援した場合は、家族に受診結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	■終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 家族を交えて、話し合いが行われている。 ■本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<p>■人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 さりげなく言葉かけをしている。</p> <p>□他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 月1回の職員会の時に、管理者から話している。職員同士で注意をシェアすることもあるが、ホール横にあるホワイトボードに、個人の情報がメモされていた。</p> <p>■全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底している。 採用の時、管理者から話をしている。本部の新人研修の場でも徹底を図っている。</p>	○	個人情報の管理には細心の注意が求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>■一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。</p> <p>■事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>■献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 本部が献立を作成しているが、利用者の好みに配慮して、一部メニューを変更している。調理や後かたづけは、利用者も一緒にしている。</p> <p>■職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べてい各テーブルに職員が付き、話をしながら利用者と同じものを食べている。</p>		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<p>■利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 入浴時間は利用者の希望にあわせて、毎日入浴できる体制をとっている。</p> <p>■入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 職員を変えて声かけを行うなど工夫している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<p>■何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。</p> <p>■食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。洗濯、掃除、花の水遣り、布団干しなどの場面を作り、また、今年は白菜の漬物作りにも挑戦する機会を検討している。</p> <p>■一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。</p>		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<p>■近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。馴染みの店へ衣類や果物などを買いに行っている。</p> <p>■歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。</p> <p>車椅子利用の方が3名いるが、1週間に1～2度の外出を心がけている。同一法人の老人ホームの車を借りて、出かける事もある。</p> <p>■日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<p>■居室や日中玄関に鍵をかけていない。夜間のみ玄関に鍵をかけている。</p> <p>■利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。外出傾向等を把握し、そつと見守り対応している。</p> <p>■近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。</p> <p>一人で外出された利用者について、近所の方から電話をもらうなど見守り体制はできている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に行っている。 年2回の避難訓練を行い、年1回消防署の指導を受けているが、地域住民の参加がない。 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 ※視認する。	○	事業所の特性から近隣住民の協力は不可欠であり、地域代表の運営推進員等を通じて協力を呼びかけるなどの対応が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 栄養摂取量や水分量は把握出来ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 本部から来た献立表が基本となるが、利用者の好みに配慮して、一部独自に変更している。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 テーブルやソファの向きに工夫があり、家庭的な筆筒も配置されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気壊していない。 <input type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 季節はずれの飾りがそのまま飾られており、配慮が必要である。	○	壁面飾りにこだわらず、花の一輪でも良いので季節が判る工夫が欲しい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置おくなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 居室には、神棚、テレビ、写真、筆筒、ハンガー、椅子など馴染みのものが用意されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 置物の量にこだわらず、本人が落ち着いて過ごせる居室作りを心がけている。		